

# 通信 稲穂 33号

2.015年…夏

発行者 宮田かねとう

〒399-8501 長野県北安曇郡松川村 627

TEL 0261-62-8630 090-2431-8817

**\* お米の注文は最後のページです**

はじめに

7月後半に入る頃、台風11号が西日本に大変な被害を残して去って行きました。薄ら寒い梅雨空から日本列島は一気に真夏に飛び込みました。夏は暑くなくてはいけません、何処まで耐えて行けるでしょうか。猛暑も日照不足や冷夏も作物の実りが悪く、収量不足を招きます。3ヶ月予報では、昨年の夏より好天が期待できるとの予想です。適度な天候だと有り難いのですが、一年間の食料を確保するために春3月から精一杯手を掛ける農作物、今年も何とか無事に育て欲しいと心から願っています。

**・改めて考える**

## 食料自給率と食の安全

天候不順がもたらす食料への影響を考えると、いつ何時も思うのは、この先も食料を外国に依存する日本のあり方です。地球規模の天候異変が農作物に多大な影響を及ぼしています。海外依存度が60%にも及ぶ現状で、国内自給率が下がる環太平洋経済連携協定（TPP）を進める国のやり方には大きな不安を抱きます。依存度が高いアメリカや豪州などは毎年ひどい干ばつです。まとも

な輸出ができるのか疑問です。またアメリカ産の肉類は余りに不衛生な環境での大量飼育が新たな問題発生を予感します。そして日本に向かう「食糧輸送船」が何かの事情でストップすれば日本は一気に狂乱状態。いつでもスーパーなどへ行けば食料があると思込んでいる訳ですが、今日の様々な情勢では、いつ輸入が止まるか判らないと思ったほうが良さそうです。集団的自衛権が火種になるかも知れません。食料輸入がストップして初めて国内自給の低さに驚くのかも知れませんが、その時になって自給率の低さに嘆いても手遅れです。

その食料がご存知の様に残留農薬、遺伝子組み替え、ホルモン剤、抗生剤、そして添加物まみれという物。それでもストップしたら大変な事になる日本の食事情。しかし40%しかない貴重な国内自給の農産物が実は、農薬使用量が面積辺りダントツ世界トップという現実は悲しい限りです。「みどり豊かな農村」は実は大変な状況にあります。こうして私たち生き物の体内に微量では有っても農薬は必ず入り込んでいます。その影響は人類の未来も閉ざすものとして科学者等が警告しています。日本は食料危機が背中合わせの国であり、同時に健康を脅かす食べ物によって支えられている事を忘れるわけにはいきません。

**気掛かりな話…**

## 商社と契約栽培する農業組織

後2年で水田の減反政策は終了になります。好きなだけ食用米を作れば良い、しかし輸入米が増えて暴落するのを承知で作りなさいと言うものです。集落で営農組合を立ち

上げて農地保全のため耕作しても、米など年々値下がり組織は崩壊寸前です。

昨年はTPPの予告を思わせるひどい米価となりました。

この先米価は下がり続けるとの見方が横行しています。こうした組合組織の苦悩に目を付けて「契約栽培」を持ち込む商社が出てきました。

酒米なら問題ないと思うのですが、食用米は営利目的の「住友」などの商社がどのような種子を持ち込むのか気掛かりな話しです。

### 我が農園の様子

さて我が農園の今年の様子をお知らせします。今年思い掛けなく大きな面積が2ヶ所増えて喜ばしいのですが、トラクターで往復40分の遠方と3年間放置され沼状態になっている所を貸して頂く事になりました。遠くの田んぼは前の耕作者が有機物をふんだんに使っていたため土壌が大分肥沃で肥料は少し入れるだけで見事な稲が育ちました。雑草も元気でしたが2回の除草作業で治まりました。もう一方の沼状態の田んぼは「ガマ」が繁殖していたため泥の中からその根を掘り取って軽トラック2台程運び出すなど、簡単なスタートでは有りませんでした。草は多種多様に群生していましたが2回の除草作業の効果は絶大で随分おとなしくなりました。しかし草や小動物の生息池となっていたため肥沃な土壌と化して、全く無肥料で見事な稲に育ってくれました。残った草は有り余る養分を吸収してくれた様です。この成り行きを見ていた周囲の人達は、稲の出来栄を見て好評価をしてい

る様でホットしました。耕作面積を増や

(3年振りによみがえった水田・出穂まじか 7月下旬)  
す必要に迫られての事でしたが努力の甲斐があつて本当に良かったと、この田んぼとの出会いにも感謝です。

### 無農薬米・今年の作柄

自分でも16年目にして確信が持てたのは、大きく丈夫な苗が育てられた事により、田植え後の生育がとても順調に行つた事。除草機で草たちを一旦押さえ込んで置く合間に稲はグングン育ち、新しく出てくる草との差を大きく引き離しました。勿論土壌は秋の刈取り後から翌年春までには極力有機物を分解腐食させておきます。田植え後毎日田んぼを見回りますが、日に日にたくましく伸びるのが判りました。

今年例年より1週間ほど穂の出るのが早まりそうです。この通信が出来る7月末には早いところは穂が出揃うようです。稲株の本数も増えて程よく茂りながら葉の色も穏やかに下がって来ました。これで食味は確保です。昨年も除草効果により増収しましたが、今年はそれ以上に増収する気配です。やはり苗の良し悪しは決定的です。

(米ぬかを撒く娘…最後に植えた水田は手まきで)

### わたくし事で恐縮な話、

そんな春の作業を1つ1つ進め、6月20日頃除草作業も終わり、後は稲自身の力で草にも負けず育ってくれる事を願い、そして小麦の刈り取り、大豆の播種など済ませながら常に考えていた事がありました。6月30日に右肺の悪性と思われる腫瘍を切除するため28日に入院する事でした。手術としては初期の段階でしたので2時間程で終わりました。手術の事を考えながら入院中出来ない仕事を事前に間に合わせしておく事は大変でした。無事に7月14日には退院しました。入院中も退院した今も多くの方々に心配頂いたり世話になって本当に感謝の日々です。9月の稲刈りは通常通りに働けるから大丈夫と医師のお言葉でした。手術に際しては多くの看護師達の優しく真摯な仕事振りに感謝です。特に男の看護師は別の有り難さがありました。

### 最後に…私も言いたい

このところ国会の動向が気掛かりです。テレビ画面に映し出される、おぞましい程の強行採決。凄まじいシーンです。

集団的自衛権に反対する議員の国会での論戦と連日続く日本中の若者や母親達、一般市民の壮大な抗議の声。国民が自主的判断で奮い立つ姿は本当に勇気が湧いて来る。それを振り切った強行採決。政府はアメリカへの更なる属国体制強化を目指すつもりです。かつてベトナム戦争も、イラク戦争も発端はアメリカのでっち上げでした。その事を知りながら日本はアメリカの専制攻撃に加担しました。安倍政権は歴代の政権が躊躇して留まった事を次々と「断行」しています。しかし今度の事で彼らの本質が鮮明になったと言えます。彼らにとって、平和の象徴である憲法9条が如何に目障りであったか。

しかし戦後70年、アメリカとの同盟国で有っても何とか平和で来れたのは憲法第9条が有ったからであって、そうでなければ在日米軍基地と合わせて日本も攻撃されていたかも知れない。集団的自衛権によってその危険性が非常に高まるように考えます。

**あとがき…我が暮らしの自給率アップ**  
いつか私もヤギを飼育してお乳を頂こうと思っています。ニワトリも自給自足の餌で10羽位飼育して卵を頂き、肉は合鴨と地鶏で時々ご馳走になり、できれば川魚も飼いたいです。野菜の係りは現状どおり女房ですが、少し手伝いたいと思います。…ささやかな楽しみです。

## 27年産・お米の注文承ります

例年どおり昨年8月から今年7月末までの12ヶ月間ご利用いただいた数量が基本数量です。

予約量に対しての実際にご利用いただいた数量を下記に示しました。

この実際の利用料が今年の注文料となりますが、変更される方は8月中にお知らせください。

様

昨年8月の予約数量	k g
* 実際のご利用量	k g

尚・大豆と黒豆は11月にお届けする事になりますが、ご注文はお米と一緒に承ります。